タイトル：スーパーカミオカンデにおける大気ニュートリノ振動と陽子崩壊の最新結果

発表者：ウェンデル　ロジャー　（京都大学）

要旨

スーパーカミオカンデ実験の320kton-yr以上のデータを用いた最新の研究結果を報告した。大気ニュートリノを用いたニュートリノ振動の研究ではニュートリノの逆質量階層性を91.5%から94.5%の優位度で棄却し，4σ以上で観測出来たタウニュートリノ事象の荷電カレント散乱断面積測定を行った。間接的な暗黒物質探索では，銀河中心由来も地球中心由来も優位のWIMP信号を得ず，反応断面積に厳しい制限を与えた。SUSYモデルが予言する陽子崩壊探索も候補事象が見つからず，寿命の制限を更新した。